

標準化タスクフォースにおける 取組の報告

令和7年3月18日

国土交通省 BIM推進会議 標準化タスクフォース、属性項目の標準化における成果物として「標準属性の標準化」「ソフト間での連携」「外部データとの連携」を軸に検討を進めてまいりました。

建設業界におけるデジタル化と効率化を推進し、共通の基準となるBIMの属性情報ガイドラインを提供することを目的として、今年度中に正式版として「標準属性項目リスト」及び「標準属性項目の解説書」を提示する予定であります。

皆様のご協力と知恵の結集により、この成果物が業界標準として広く受け入れられることを期待していますので、何卒、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2025年3月18日
標準化タスクフォース

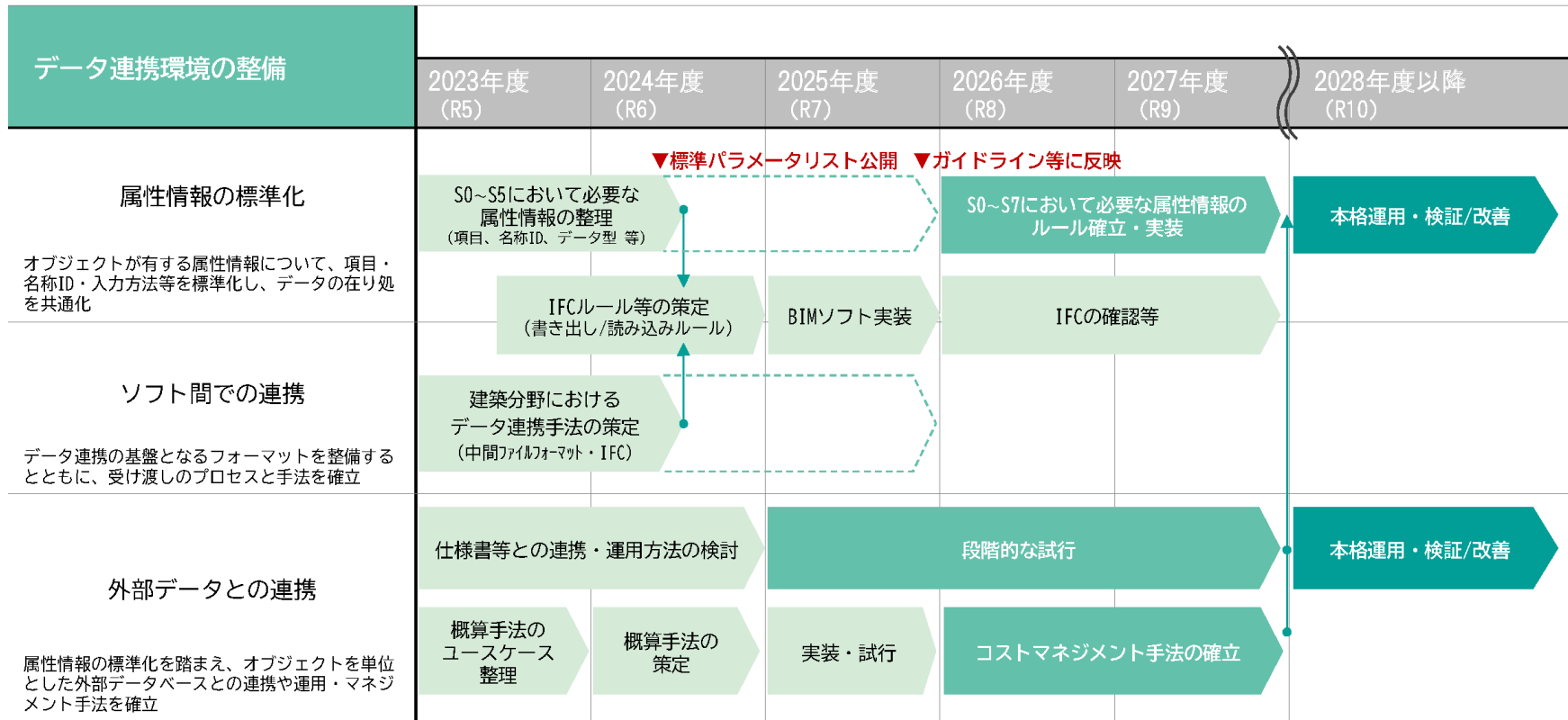
1.	標準化タスクフォースの目的	-----	03
2.	これまでの検討・作業概要	-----	10
3.	I. 属性情報の標準化	進捗報告 -----	17
4.	II. ソフトウェア間連携	進捗報告 -----	25
5.	III. 外部データとの連携	進捗報告 -----	30
6.	今後の取り組み	-----	37

1

標準化タスクフォースの目的

BIMの将来像と工程表 - データ連携環境の整備

データ入力ルール等の整備（データの標準化）とデータの受け渡しルール等の共通化を進めることで、設計・施工・維持管理等プレイヤー間でのBIMデータの横断的活用を進め、建築分野における生産性向上を実現する。



引用：第11回BIM/CIM推進委員会「建築分野における検討WG（建築BIM推進会議）の活動状況について」令和6年2月22日

用語の整理を行った結果、「標準パラメータリスト」ではなく、「標準属性項目リスト」と名称を改めました。

BIMの普及が加速

国内におけるBIMの普及が加速するにつれて、BIMデータの利活用による業界の枠を超えた効率化や生産性の向上に注目が集まる。



BIM標準の重要性

業界を代表する様々な団体がBIMデータの利活用に向けて、標準ルールやガイドラインを作成して、BIMデータの利活用を推進。



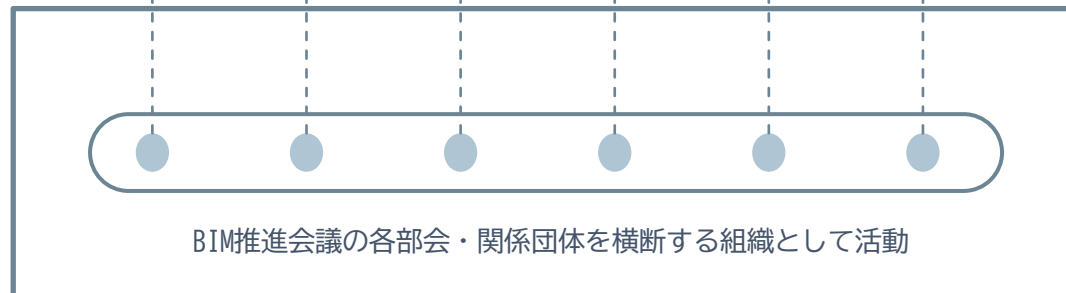
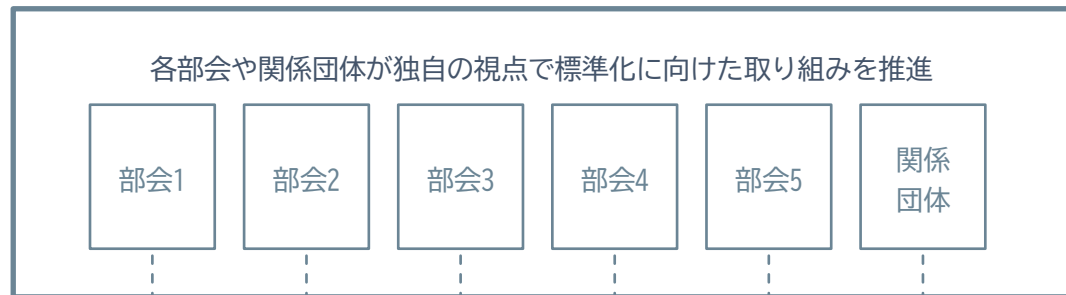
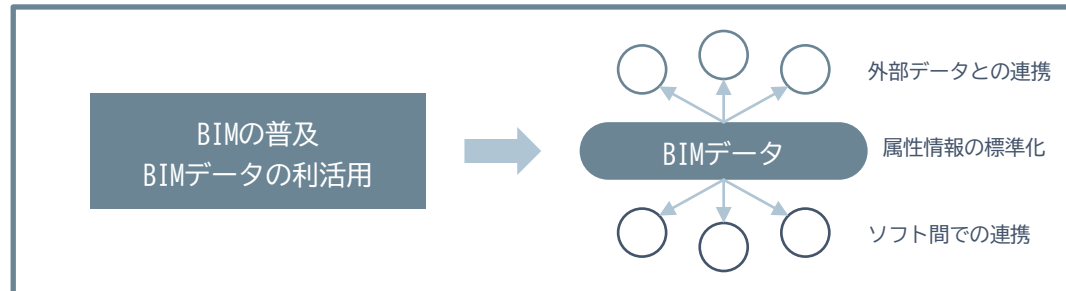
BIM標準の整合性

国内におけるBIM標準ルールやガイドラインの整合性を取り、広い範囲でBIMデータを活用するための横断するタスクフォースを設立。



BIM標準指針の例示

BIMをデータベースとして利活用するための、属性情報の標準化、ソフト間での連携、外部データとの連携の指針などを検討。



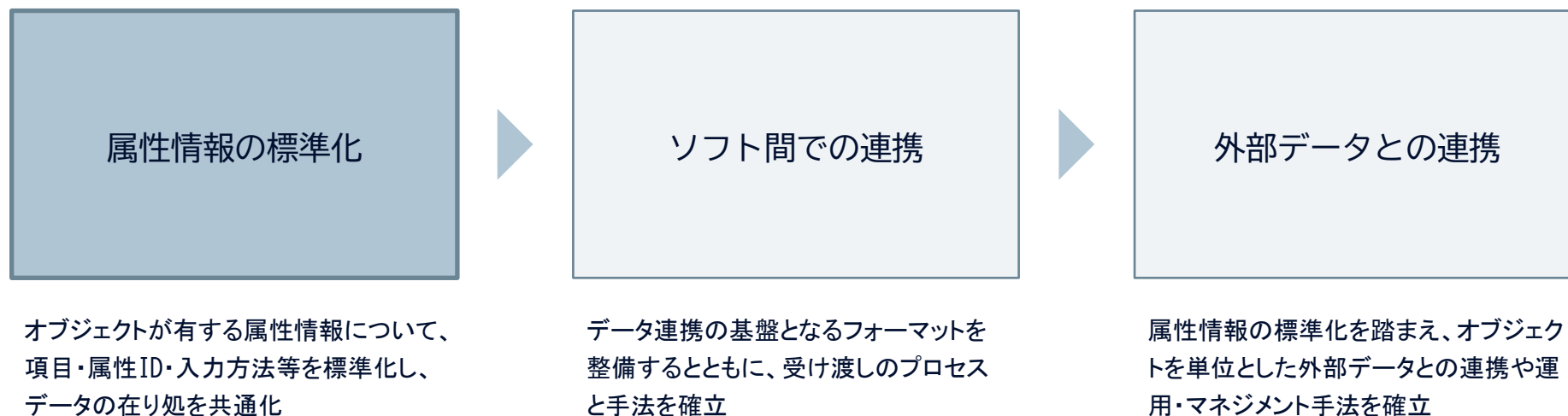
目的

本タスクフォースにおける「標準化」とは

建築生産のフローすべてをルールで雁字搦めにするのではなく、必要もしくは当たり前な部分を属人化されることなく共通認知できるようにするための参照点として整理することを目的としています。

そのため、これまで各企業で進めていた標準化の取り組みを阻害するものではありません。

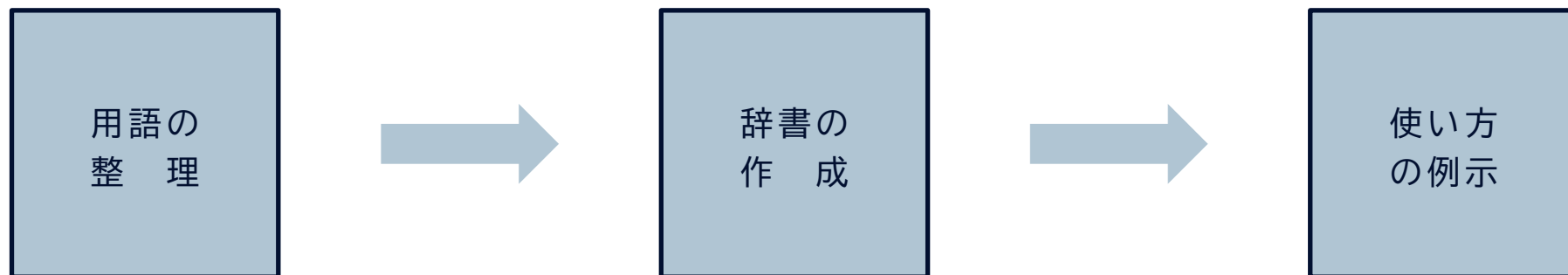
各企業においては引き続き標準化の取り組みを進めていただきますようお願いいたします。



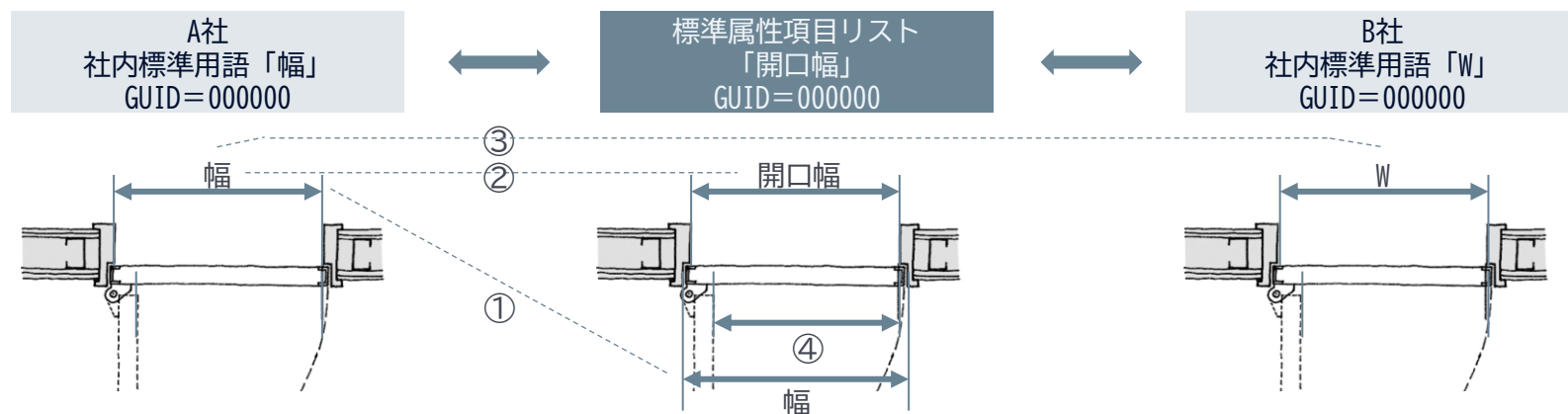
「標準属性項目リスト」は、「用語の定義」と「用語のマッピング」を目的としており、辞書的な活用を可能とするものです。将来的には、使い方の例示（ユースケース）を増やして、ソフト間及び外部データとの連携の指針として提示する予定です。

辞書について -1

本タスクフォースにおける「辞書」とは
今回提示する「標準属性項目リスト」は、各分野で使用されている用語を整理し、属性情報を利活用する際の辞書的な位置付けとして意匠・構造・設備を網羅的に取りまとめています。



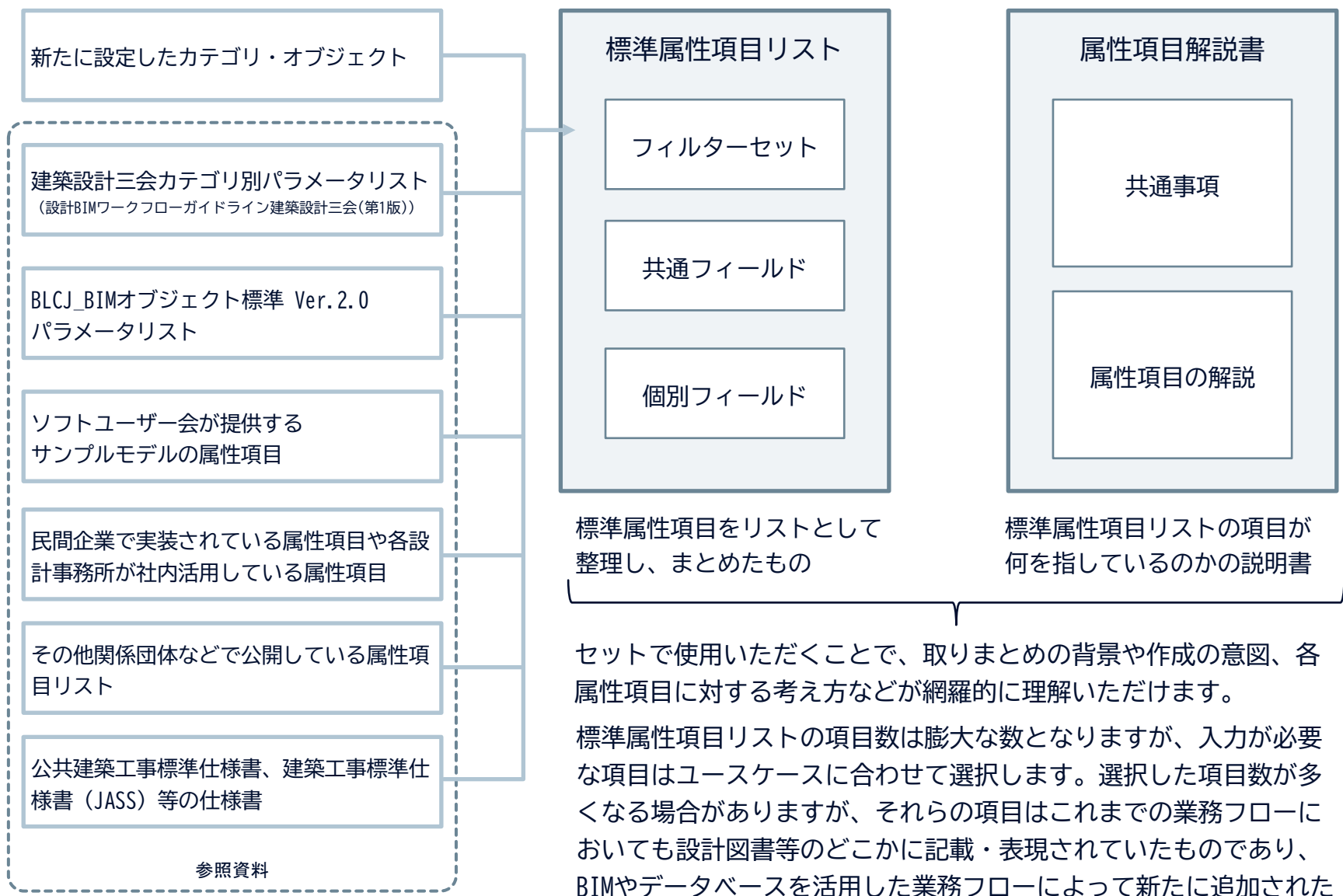
- 用語の定義＝標準属性項目リストの用語（属性項目名）の定義（説明・備考等）を確認し、理解できる。
- 用語のマッピング＝標準属性項目リストのGUIDを介し、組織間の用語のマッピングが可能になる



- ① 同じ「幅」という用語を使っているが、示している場所が異なる。
- ② 標準属性項目リストの「開口幅」の解説から、A社の社内標準用語の「幅」であることが分かる。
- ③ 標準属性項目リストのGUIDを介することで、A社の「幅」がB社の「W」であることが分かる。

※より詳細な説明は「解説書」にて記載を行いますが、全ての属性に対して検討を行ったわけではないため、④のように標準属性項目リストに記載のないものもあります。

本公開対象の標準属性項目リストと解説書の使い方



新たに設定したカテゴリ・オブジェクト

建築設計三会カテゴリ別パラメータリスト
(設計BIMワークフローガイドライン建築設計三会(第1版))

BLCJ_BIMオブジェクト標準 Ver.2.0
パラメータリスト

ソフトウェア会が提供する
サンプルモデルの属性項目

民間企業で実装されている属性項目や各設計事務所が社内活用している属性項目

その他関係団体などで公開している属性項目リスト

公共建築工事標準仕様書、建築工事標準仕様書 (JASS) 等の仕様書

参照資料

標準属性項目リスト

フィルターセット

共通フィールド

個別フィールド

標準属性項目をリストとして整理し、まとめたもの

属性項目解説書

共通事項

属性項目の解説

標準属性項目リストの項目が何を指しているのかの説明書

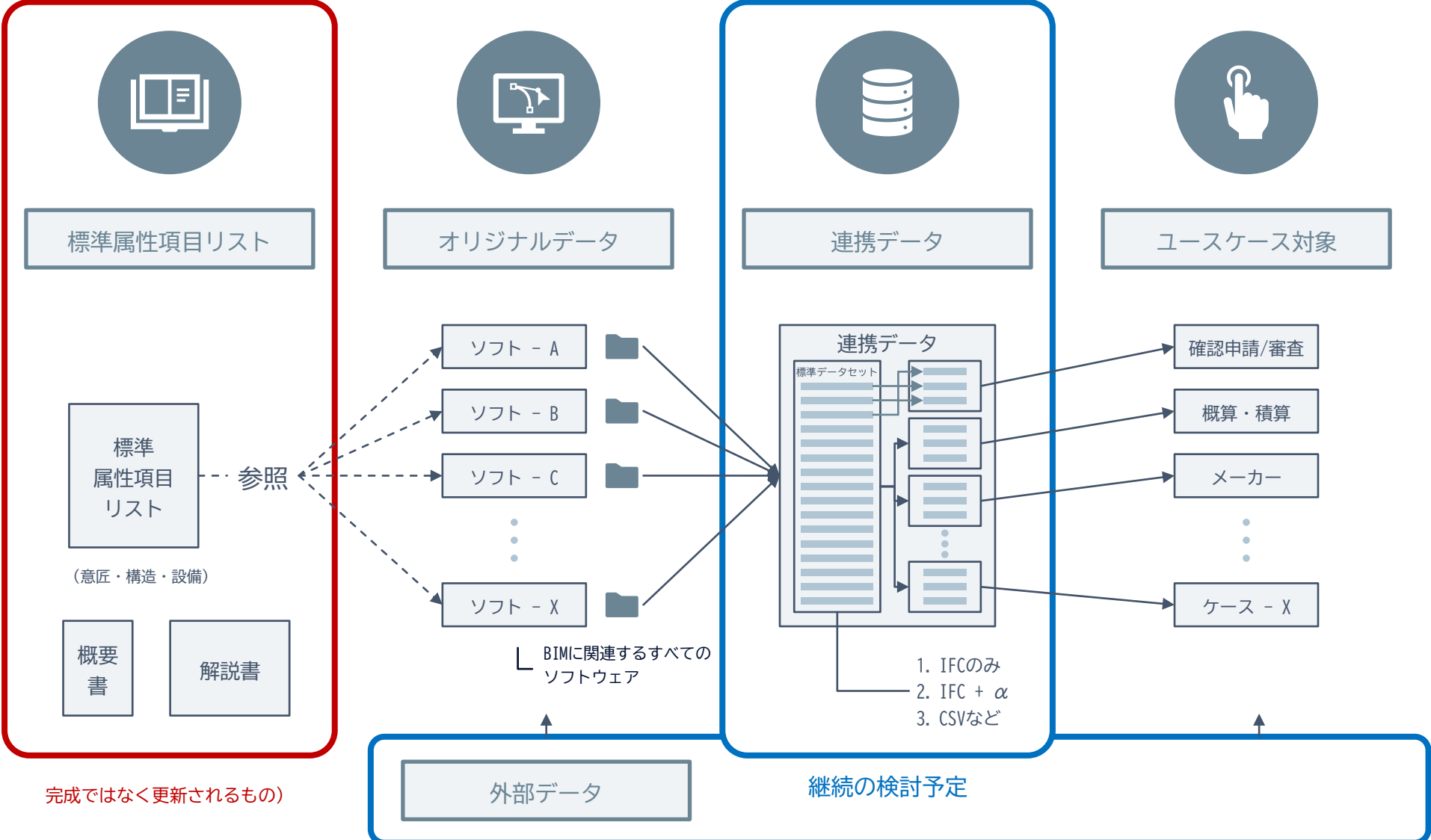
セットで使用いただくことで、取りまとめの背景や作成の意図、各属性項目に対する考え方などが網羅的に理解いただけます。

標準属性項目リストの項目数は膨大な数となりますが、入力が必要な項目はユースケースに合わせて選択します。選択した項目数が増える場合がありますが、それらの項目はこれまでの業務フローにおいても設計図書等のどこかに記載・表現されていたものであり、BIMやデータベースを活用した業務フローによって新たに追加された項目ではありません。

スコープ

以下のスコープで検討を進めています。

今後の連携データの検討においては、フォーマットの検証とともにサンプルモデルをベースに検討を進めています。

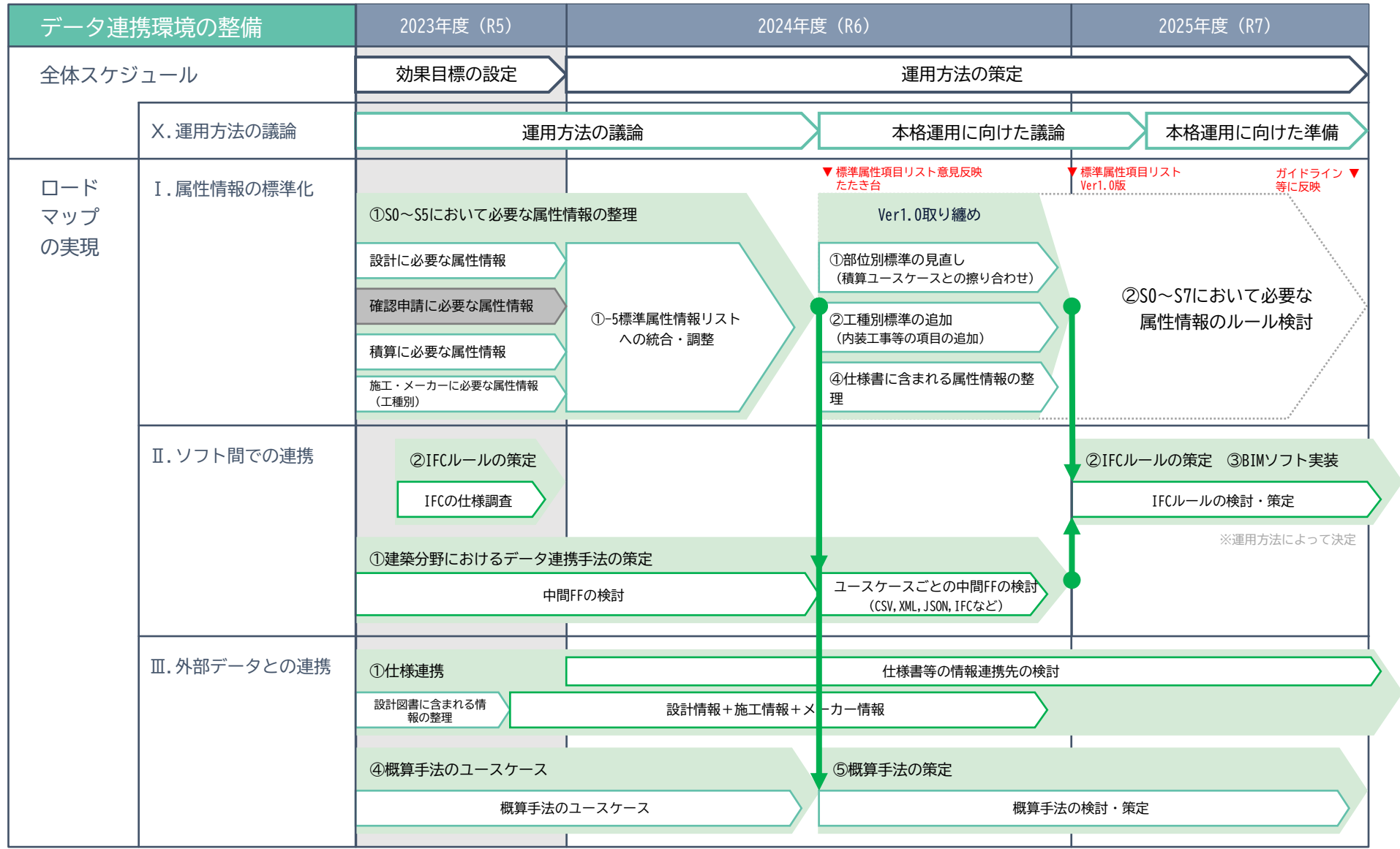


完成ではなく更新されるもの)

2

これまでの検討・作業概要

将来像と工程表に対する標準化タスクフォースのロードマップ



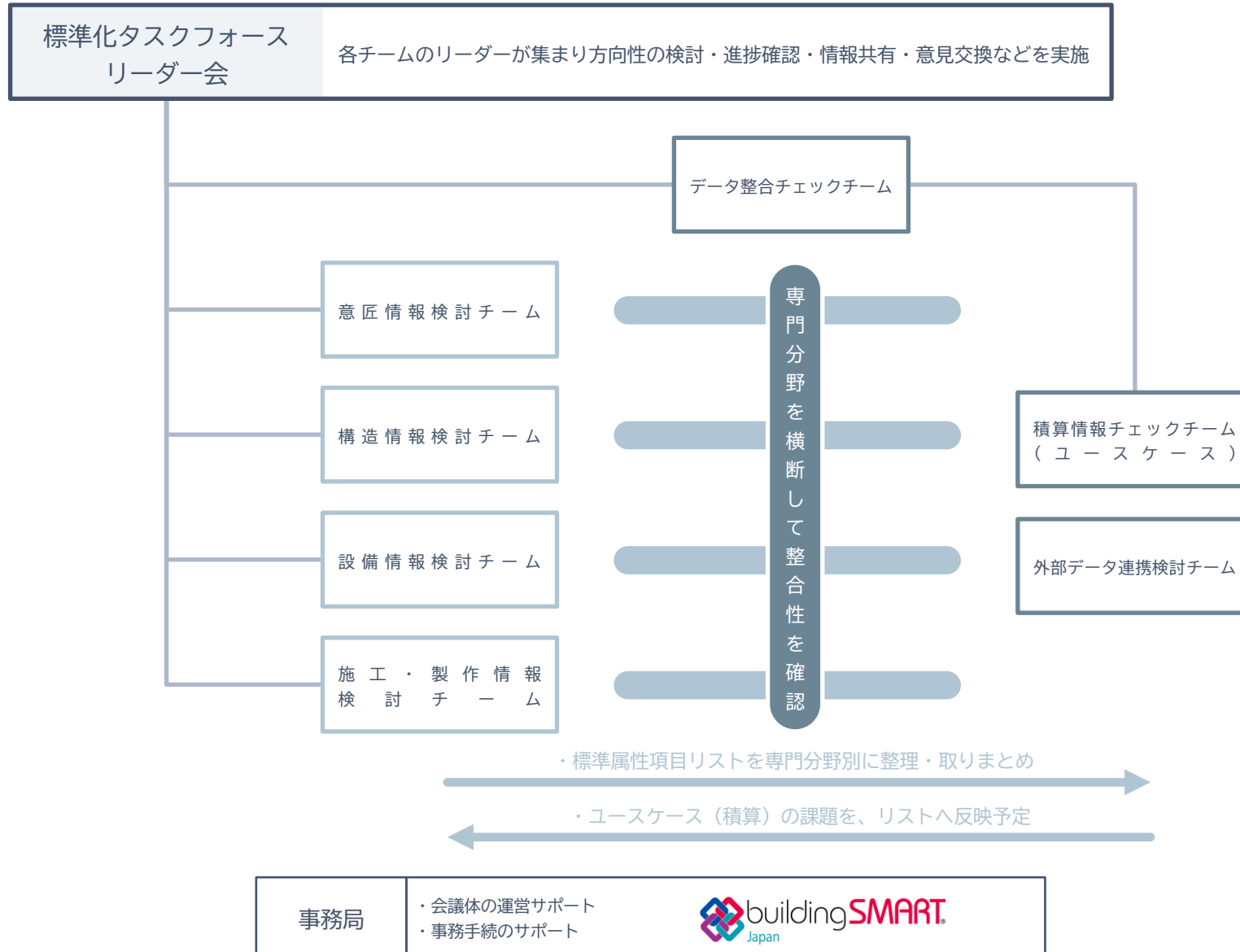
マイルストーン/進捗

青文字：着手済み
 レ点：完了
 ・点：継続
 黒文字：未着手

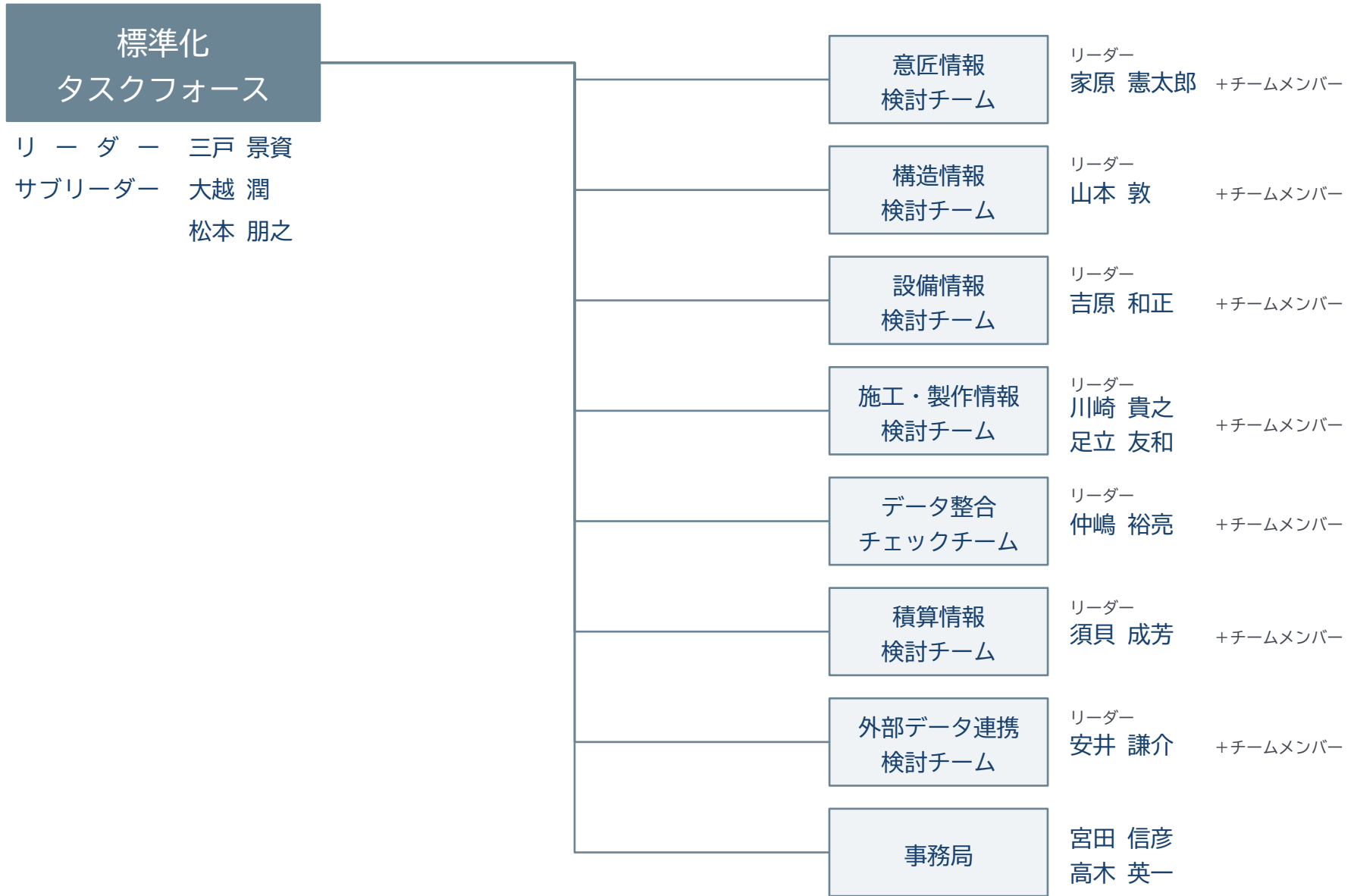
2024年度	4	5 Q1	6	7	8 Q2	9	10	11 Q3	12	1	2 Q4	3						
アウツプット	標準属性項目リスト タスクフォース内取り纏め▼			標準属性項目リスト意見反映 たたき台▼			標準属性項目リスト意見反映 素案▼			標準属性項目リスト 精緻 Ver1.0 報告書提出 ▼								
I. 属性情報の標準化	<p>「標準属性項目リスト」の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 対象とするカテゴリの棚卸し ✓ 必要な属性項目の整理 ✓ 用語の整理方針・言葉の定義 <p>必要な属性情報項目の整理・リスト化</p> <p>S0~S5</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 【部位別】意匠・構造・設備 ✓ 【工種別】施工/製作 & データ整合チェック 			<p>協力団体 意見収集</p>			<p>「標準属性項目リスト」の定義</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ リストの全体像（対象とするカテゴリ種類、枠組み） ✓ 項目リストのフォーマット、リストに定める事項 ✓ 言葉の定義 ・ リスト利用（属性ID、ユースケース） <p>対象とするカテゴリ・属性情報項目の精緻化</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 分類に関する考え方の整理 ✓ 意匠・構造・設備・施工・製作 それぞれでの見直し ・ 意構設での連携、調整 ・ 施工/製作での連携、調整 			<p>各チーム 課題整理</p>			<p>標準属性項目リストの利用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 想定されるユースケース ✓ 利用イメージ 			<p>報告書作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 報告書として整理 ・ 標準属性項目リスト整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 説明資料・ロングリスト・解説書 ・ リスト利用 <ul style="list-style-type: none"> ・ （属性ID、ユースケース）のまとめ ・ 運用方法に関する提案 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本格運用に向けた準備として、継続的にメンテナンスを行うための戦略や方針を検討 ・ 取組から得られた課題提起 <ul style="list-style-type: none"> ・ 計算情報 ・ 英語化 		
II. ソフト間での連携				<p>連携手法の検討・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 検討用簡易モデルの作成 ・ 一部工種（検討中）の連携仕様作成 ・ 垂直連携（基本設計、実施設計）フローの作成 <p>中間ファイルフォーマットの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CSV、Xml、Json、IFCなど包括的に特徴を整理 ・ IFCルール・枠組み・実装フローの調査・検討 			<p>連携モデルとしての標準形のあり方検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間ファイルフォーマットを介したデータ連携の標準形 ・ 協業する際のルール・所作の考え方 ・ 社会実装する際の検討項目・実装フローの策定、工程案 											
III. 外部データとの連携				<p>外部データ 定義 方針検討</p>			<p>BIMを用いた概算法の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 概算の考え方や目的の整理 ・ ユースケースの整理 ・ 手法の策定、検証 <p>BIMによる外部データ連携に向けた課題の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部DBとして想定されるラインナップと粒度を検討 ・ 外部DBとの連携のカタチ（ユースケース検討） ・ BIMへのデータの持たせ方（外部化する項目はどれか） 											

実施体制

意匠・構造・設備・施工の各専門分野チームと積算・データ整合のチェックチームをマトリックス状に配置して実施体制を構築



組織図



2024年度のタスクリスト

項目	目的	完了予定時期	タスク	成果物	備考・確認事項
Ⅰ 属性情報の標準化	標準属性項目リストを各社が実装することで、データ連携がスムーズになる	2025年3月	①部位別標準の見直し	標準属性項目リスト	ユースケースを元に不足や重複の確認と整理
		2026年3月	②工種別標準の追加	標準属性項目リスト	ユースケースを元に不足や重複の確認と整理 専門工事会社・メーカーヒアリングを含む特定工種の追加を含む見直しを実施
		2026年3月	③計算情報の追加	標準属性項目リスト	ユースケースを元に不足や重複の確認と整理
		2025年3月	④仕様書に含まれる属性情報の整理	標準属性項目リスト	ユースケースを元に不足や重複の確認と整理
		2025年3月	⑤属性情報の表現と共通部分の整理	標準属性項目リスト	用語や凡例を元に属性名称の言葉としての定義を整理 分野間の共通項目の整理
		2025年3月	⑥属性標準の定義	標準属性項目リスト解説書	属性が何を示すのか属性名称に対応した定義を整理する 識別情報（固有のID）の検討を含む
		2025年3月	⑦属性情報のフィードバック		標準属性項目リスト提供により各団体定義情報のブラッシュアップ依頼
Ⅱ ソフトウェア間での連携	ユースケースに基づき、標準属性項目リストに対応した中間ファイルフォーマットを策定することで、データ連携がスムーズになる	2024年9月	①ユースケースの検討	属性情報の検討報告書	属性情報のユースケースの検討
		2025年3月	②情報連携の実用性検証-1	属性情報の検討報告書	積算ユースケースに基づき、部位・部分別情報と工種別情報を用いて標準属性項目リストとソフトウェア間連携に関する課題の抽出と改善策の提案を検討 BIMソフトウェア上・積算ソフト連携・ExcelなどのCase毎の課題を整理
		2025年3月	③情報連携の実用性検証-2	標準属性項目リスト	想定するユースケースに基づき、いつ誰がどのような情報を必要とするかを整理する 標準属性項目リストを拡張し、MET・MATの検討を行う
		2025年3月	④情報連携の実用性検証-3	属性情報の検討報告書	想定するユースケースに基づき、効率的な連携手法構築のための属性情報の活用方法を検討する 連携サンプルモデルの作成
		2025年3月	⑤情報連携の実用性検証-4	属性情報の検討報告書	想定するユースケースに基づき、効率的な連携手法構築のための属性情報の活用方法を検討する サンプルモデルを利用した検討
Ⅲ 外部データとの連携	外部データとして扱われる情報を整理することで、モデル情報とその他の情報を整理し、データ連携手法を検討することで、データ連携がスムーズになる	2025年3月	①情報連携先の検討	属性情報の検討報告書	標準仕様書・認定書などオープンな情報と特記仕様書・要領書などクローズドな情報の連携手法の検討
		2025年3月	②既製品の情報の検討	属性情報の検討報告書	既製品の性能・仕様情報の連携手法の検討 メーカーヒアリングにより保有データベースの調査を含む
		2025年3月	③標準的に扱われる情報の検討	属性情報の検討報告書	法的に定まらないが標準として一般的に扱われている情報の整理
		2025年3月	④情報管理の在り方の検討	属性情報の検討報告書	コンテンツ管理の在り方に対する検討

2024年度の作業工程

更新箇所

項目	目的	タスク	成果物	2024年度	2025年度
I 属性情報の標準化	標準属性項目リストを各社が実装することで、データ連携がスムーズになる	①部位別標準の見直し	標準属性項目リスト	検討 → 報告書作成	
		②工種別標準の追加	標準属性項目リスト	検討 → 報告書作成	検討 → 報告書作成
		③計算情報の追加	標準属性項目リスト	検討 → 報告書作成	検討 → 報告書作成
		④仕様書に含まれる属性情報の整理	標準属性項目リスト	検討 → 報告書作成	
		⑤属性情報の表現と共通部分の整理	標準属性項目リスト	検討 → 報告書作成	
		⑥属性標準の定義	標準属性項目リスト解説書	検討 → 報告書作成	
		⑦属性情報のフィードバック		検討	
II ソフトウェア間での連携	ユースケースに基づき、標準属性項目リストに対応した中間ファイルフォーマットを策定することで、データ連携がスムーズになる	①ユースケースの検討	属性情報の検討報告書	検討 → 報告書作成	次年度工程
		②情報連携の実用性検証-1	属性情報の検討報告書	検討 → 報告書作成	
		③情報連携の実用性検証-2	属性情報の検討報告書	検討 → 報告書作成	
		④情報連携の実用性検証-3	属性情報の検討報告書	検討 → 報告書作成	
		⑤情報連携の実用性検証-4	属性情報の検討報告書	検討 → 報告書作成	
III 外部データとの連携	外部データとして扱われる情報を整理することで、モデル情報とその他の情報を整理し、データ連携手法を検討することで、データ連携がスムーズになる	①検討チームの立ち上げ		検討 → 報告書作成	
		①仕様連携・連携・運用方法の検討-1	属性情報の検討報告書	検討 → 報告書作成	
		①仕様連携・連携・運用方法の検討-2	属性情報の検討報告書	検討 → 報告書作成	
		②ユースケースの検討	属性情報の検討報告書	検討 → 報告書作成	

3

I. 属性情報の標準化

進捗報告

作業内容

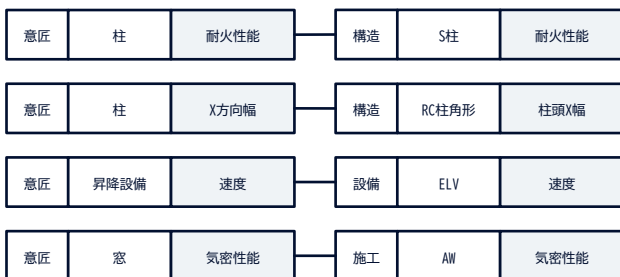
タスク	作業方針	作業分担	担当	作業リスト
①部別標準の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ● 部別別のオブジェクトリストをチーム間相互理解を行う ● ユースケースを元に不足や重複の確認と整理 ● 今回整理した位置づけや整理にあたっての考え方を取り纏め 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各チームで検討した結果を、リーダー会で協議 ● 意見収集での結果をリーダー会でフィードバック(現状の考え方を整理→擦り合わせ→意見収集反映) 	全チーム実施	オブジェクト洗い出し・統合→階層分類 i. 他チームの部別リストを確認し、質疑応答 ii. 部別分類の意図共有 iii. 部別の階層を統一する ユースケース・意見集約結果に基づく追加反映 i. 積算ユースケースをもとに再確認 ii. 他意見反映版ユースケースをもとに再確認
②工種別標準の追加	<ul style="list-style-type: none"> ● 専門工事会社・メーカーヒアリングを含む特定工種の追加を含む見直し ● 今回整理した位置づけや整理にあたっての考え方を取り纏め 	<ul style="list-style-type: none"> ● 施工製作チームで主導し、具体的に進める ● 意見収集での結果をリーダー会でフィードバック(今年度の実施範囲と今後の目論見はとりまとめ必要か) 	①をうけて施工チームにて実施	ユースケース検証 i. 対象の選定：アルミサッシ・ガラス ii. ケース検討：(見積、発注、製作、取付、品質管理等から1つ選択) iii. 「標準属性情報リスト」のうち、必要情報の抽出 iv. モデル作成方針検討(アルミサッシの種類、データ作成者、使用ソフト、中間ファイル、外部データ等) v. モデル作成(属性情報入力)、外部データ連携 vi. データ連携試行、課題抽出
③計算情報の追加	<ul style="list-style-type: none"> ● 属性項目のブラッシュアップ ● パラメータを参照して計算した結果を値とするパラメータと内部計算結果を値とするパラメータを分類 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各チームにて、計算情報が必要となる項目をピックアップ(標記の方法や情報の取り扱い、構造チーム主導か) 		次年度以降の検討
④仕様書に含まれる属性情報の整理	<ul style="list-style-type: none"> ● 属性項目の中で外部と紐づけが想定されるものをピックアップ? 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各チームで検討した結果を、リーダー会で協議 ● 意見収集での結果をリーダー会でフィードバック(現状の考え方を整理→擦り合わせ→意見収集反映)→部位を選定してトライアル? 	標準化TFLD/SLD	作成した属性項目リストから仕様書の箇所を抽出 i. 意匠構造設備でそれぞれ現状の図面に書いていたことと、特記仕様書にいていたこととで仕分けを行う ii. 海外情報の分析(外部データ連携タスクと連動) iii. 内容と比較を一例として行う
⑤属性情報の表現と共通部分の整理	<ul style="list-style-type: none"> ● 用語の定義・整理方針・命名規則などを明文化して共有 ● 単位・データタイプは「考え方」を提示(秒*時間、勾配等) ● 「大分類・中分類・小分類」の呼び方、使い方の提示 ● チーム間で同じ意味を持つ属性項目同士の整合を取る 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各チームで検討した結果を、リーダー会で協議 ● 意見収集での結果をリーダー会でフィードバック ● 属性IDの付与 	全チーム実施	標準属性項目リストへの反映 i. 分類の考え方を「part of/type of」等に基づき共通認識の元現リストの再確認を行う ii. 属性IDについて、付与の意味・使い方・付与方法を決定 iii. 属性IDの付与 iv. データタイプのチーム内定義→精緻化 用語集への反映 i. 用語のラインナップ作成 ii. 命名規則の共通認識：リファレンス作成 iii. 共通項とチームごととで分類 iv. 共通項・チームごとで作成
⑥属性標準の定義	<ul style="list-style-type: none"> ● リストのフォーマットを整備する。共通項は左寄せ・右側に各オプション(データベース視点での扱い方) ● 「分類」「活用場面」等の扱い、位置づけを明確にする ● 英語表記について検討(単純な英訳ではなく、BsddやプログラムのDB観点も取り入れ、多領域への影響も調査していく) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各チームで検討した結果を、リーダー会で協議(イラストは意匠チーム) 	全チーム実施	i. 現状のフィールドの共通認識 ii. フィールドのグループ化：データ・phase(when)Case(Whom/How)Type(What) iii. チームごとの属性項目リスト修正反映 iv. 標準属性項目リストの使い方 英語化にあたって考え方を整理 i. 考え方の整理 ii. 方針決定
⑦属性情報のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ● 出てきた意見を項目・種類別に整理 ● 反映するものを選別しながら、課題については論点を明確にする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事務局で整理した意見集を、リーダー会で協議 ● 特にユースケース・利用方法についてリーダー会で議論 	8/23の意見集約結果をもとに設計全チーム実施	i. 意見集約 ii. 優先度の設定：たたき台とV1.0以降とで分別 iii. 優先度たたき台を各チーム実施 iv. 優先度たたき台をユースケースに反映 v. 優先度V1.0で実施するリスト・スケジュール化

属性IDの付与について

現状の「標準属性項目リスト」において、各チーム間での重複をチェックし、「BLCJオブジェクト標準V2.0」などの標準仕様において、既に規定されているIDは属性IDに転記し、その他の全属性項目に属性IDを付与いたします。

属性項目の重複チェック

整合チェックチームによる横断的な精査



1. 各検討チームにおける属性項目で重複していると思われる項目を全て抽出
2. 重複している項目の内容を精査し、重複していると思われる項目を全てリストアップ

重複項目の精査

リーダー会にて共有・検討

統合する
同じ属性を表す項目について統合して重複を避ける

両方に残す
異なる属性を表す項目などは双方に残して理由を記載する
例) 柱幅
意匠：仕上げを含む幅を表す
構造：躯体の幅を表す

1. 重複項目の精査
 2. 対応方法の確定
- 対応内容
- ・ 統合する物
 - ・ 両方に残す物

既存IDとのマッチング

BLCJ V2.0などのIDを属性IDとマッチング

標準属性項目リスト		BLCJオブジェクト標準	
属性ID	属性項目名	属性ID	属性項目名
12346	耐火性能	12345	速度
	X方向幅	12346	耐火性能
12345	速度	12347
	気密性能	12348

1. BLCJオブジェクト標準で規定されている属性IDを対象項目にマッチングを行う

属性IDの付与

全ての属性項目に属性IDを付与

標準属性項目リスト	
属性ID	属性項目名
12346	耐火性能
00123	X方向幅
12345	速度
00124	気密性能

1. 属性IDが空白の項目に対して、ユニークなID番号を乱数的に発生させて入力を行う

11月意見収集 結果

協力団体への意見収集 | 目的

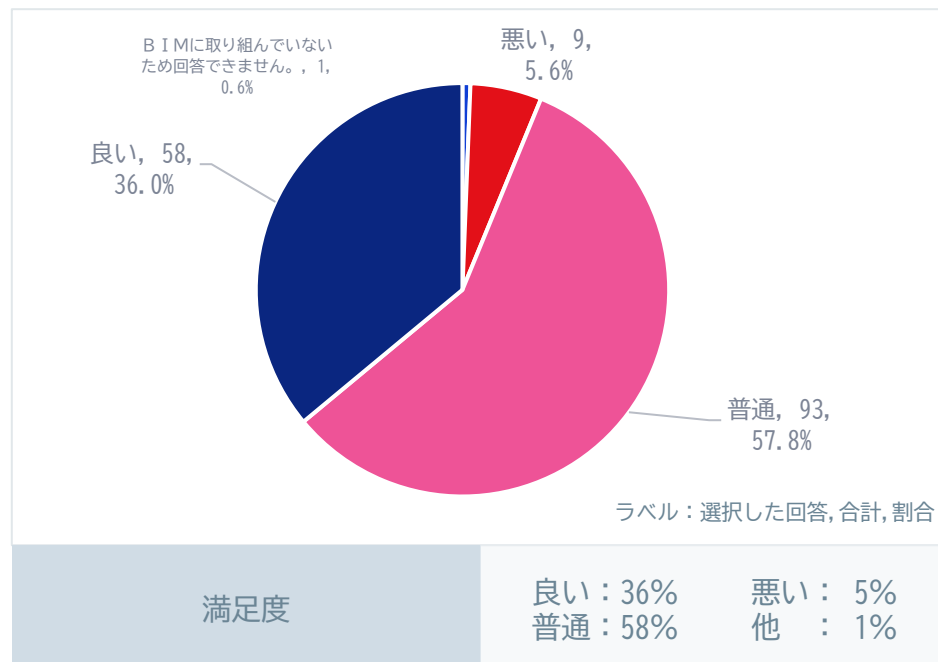
標準属性項目リスト提示にあたり、事前に広くご意見を頂戴し、より高い品質で今後の取り纏め作業を行うために、意見収集を実施いたしました。

11月29日（金）を締切として回答をお願いした内容

- 全体について今回の成果物についての満足度について、良い・普通・悪いで教えてください
- 今回の成果物について、より良いものにするために改善点などがあれば教えてください
- ユースケースについて今回の成果物に関わらず各協力団体さまが、BIMで実施したいことについて教えてください
- 成果物についてオブジェクト：追加すべきオブジェクトがあれば、その理由とともに教えてください
- 解説書の内容：図解やイラストなどより分かりやすくするためのアイデアなどがあれば教えてください
- その他お気付きの点やご意見、感想などございましたら教えてください
- 対象資料（概要書・標準属性項目リスト（pdf/excel）・解説書）についてのご意見等

11月意見収集 結果

	(公社) 日本建築士会連合会	4
	(一社) 日本建築士事務所協会連合会	16
	(公社) 日本建築家協会	1
	(一社) 日本建築構造技術者協会	4
	(一社) 日本設備設計事務所協会連合会	2
	(一社) 建築設備技術者協会	1
	(公社) 日本建築積算協会	18
	日本建築行政会議	49
	建築確認におけるBIM活用推進協議会	16
協力団体	(一社) 日本建設業連合会	14
	(一社) 全国建設業協会	3
	(一社) 日本電設工業協会	5
	(一社) 日本空調衛生工事業協会	2
	(一社) 住宅生産団体連合会	2
	(公社) 日本ファリティマネジメント協会	2
	BIMライブラリ技術研究組合	3
	(一社) 不動産協会	4
	(一社) 日本建築学会	9
	その他	21
受領数 計 176件		



設問#	アンケート概要	回答数	対象資料	ご意見数
1	A_01全体について	168	01_概要書	48
2		113	02_標準属性項目リスト全般	47
3		126	03_標準属性項目リストpdf	125
4	A_02ユースケースについて	141	04_標準属性項目リストexcel	238
5	A_03成果物について	119	05_解説書_00共通	16
6		110	06_解説書_01意匠	49
7	A_04その他	125	07_解説書_02構造	83
			08_解説書_03設備	21
			09_解説書全般	3
		総計	総計	630

意見件数集計

内容の精査

対応整理

11月意見収集 代表的なコメントと回答

対象分類	掲載したコメント	回答
1.標準化の方向性に関する意見	属性情報の標準化は、データの一貫性、効率的な情報共有が促進され、全体の生産性向上が期待される	評価いただきありがとうございます。
	グローバルスタンダードを指向する必要がある	ご指摘頂いた内容を参考に、引き続き改善を行う予定です。
	各社独自の標準化では、データ共有や活用範囲が限定される	有益な取組となるよう改善に努めてまいります。
2.属性項目リストの内容・構成に関する意見	項目の量が多すぎて、小規模事務所のユーザーには使いづらい	ユースケースによって選択して使うことになるため、全ての項目が入力対象になるとは限りません。
	共通フィールドの並びに統一感がなく、検索性が低い	ご指摘頂いた内容を参考に、引き続き改善を行う予定です。
	必須項目と任意項目を分けるべき	引き続き継続して検討していく予定です。
3.実務での運用・実装に関する懸念	実際の運用時にこれだけの情報量を確認しながらBIMデータを作成するのは大変	引き続き継続して検討していく予定です。
	BIMソフトごとの具体的な設定方法の例示が必要	ソフトウェアごとの言及は実施予定はございません。
	入力工数増加による現場負担への懸念	ご指摘頂いた内容を参考に、引き続き改善を行う予定です。
4.資料の分かりやすさに関する意見	概要書・解説書は分かりやすい	評価いただきありがとうございます。
	イラストを使った説明が分かりやすい	評価いただきありがとうございます。
	BIMに詳しくない人には難しい内容	ご指摘頂いた内容を参考に、引き続き改善を行う予定です。
5.今後の改善要望	継続的な更新・管理体制の構築が必要	ご指摘頂いた内容を参考に、引き続き改善を行う予定です。
	具体的なユースケース・活用例の提示が必要	ユースケース/データジャーニーをご参照ください。
	各種BIMソフトでの実装例やテンプレートの提供が望ましい	ご指摘頂いた内容を参考に、引き続き改善を行う予定です。
6.法規制・基準との整合性	建築基準法関係の項目や属性が不足	ご指摘頂いた内容を参考に、引き続き改善を行う予定です。
	確認申請・審査での活用方法が不明確	ご指摘頂いた内容を参考に、引き続き改善を行う予定です。
	法適合性チェックへの対応が必要	ご指摘頂いた内容を参考に、引き続き改善を行う予定です。
	用語の定義を明確にすべき	ご指摘頂いた内容を参考に、引き続き改善を行う予定です。
7.メーカー・部材情報との連携	建材メーカーとの連携	特定メーカーのみの対応とならないように業界団体と連携を検討します。
	什器情報の統合	特定メーカーのみの対応とならないように業界団体と連携を検討します。
	仕上げ材情報の共有	特定メーカーのみの対応とならないように業界団体と連携を検討します。
	製品仕様の標準化	本TFでは属性情報の標準化を目的としておりますが、製品仕様の標準化は対象としておりません。
	カタログ情報との連携	外部データ連携検討チームで連携のあり方を検討予定です。

11月意見収集に対する対応内容（一部抜粋）

アンケートの結果を、標準属性項目リストや解説書へ下記内容について、一部反映しております。
ご指摘頂いた内容を参考に、引き続き改善を行う予定です。

フィルタセット対応

属性項目リストの内容・構成に関するご意見の対応として、検索性を高めるためにフィルタセットを用意いたしました。
共通フィールドの表示の最適化と共に、検索性を高めるための対応を実施しております。

検討チーム	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目
チームA	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目
チームB	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目
チームC	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目
チームD	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目
チームE	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目
チームF	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目
チームG	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目
チームH	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目
チームI	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目
チームJ	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目	属性項目

フィルタセット

分類体系を規定するものではなく、特定の属性項目を抽出するために使用するフィルタセットです。

共通フィールド

すべての検討チームにおいて、共通する基本的なフィールドです。下記フィールドにて構成しています。

個別フィールド

検討チームごとに共通フィールド以外に必要とされる個別のフィールドです。

データタイプの統一

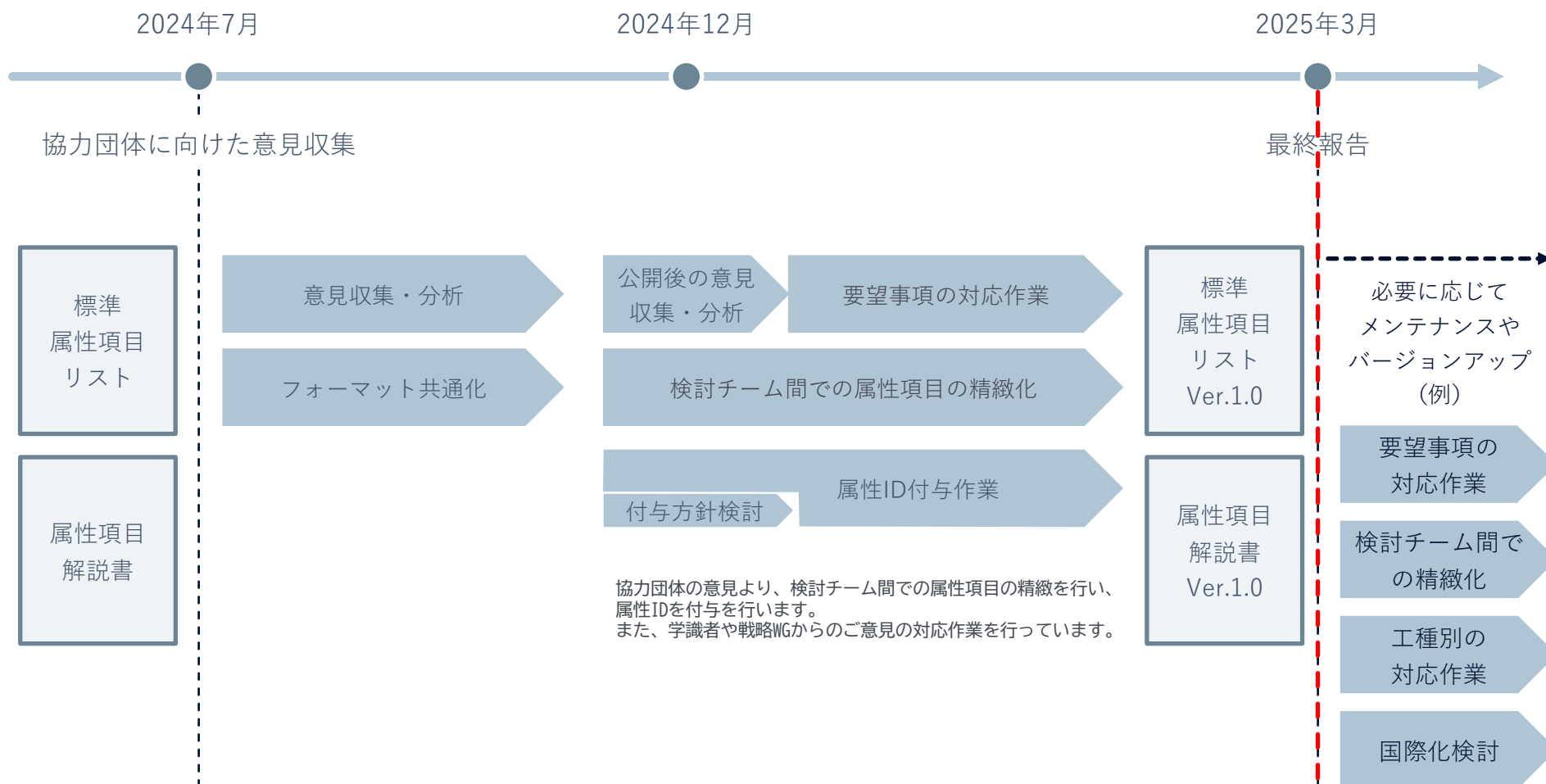
データタイプの認識が異なっていることが分かりにくいという印象を与えておりましたので、チーム毎にデータタイプの標記を統一しております。
チーム間の統合については、BLCJオブジェクト標準など既に公開されている資料との整合性の確認も必要となるため、今後の検討としております。

ユースケースの例示

具体的なユースケースを増やしてほしいとのご意見が多いただきましたので、ユースケースをピックアップし、別途取りまとめております。

今後の検討内容について

関係団体や一般企業、学識者からの意見をとりとめて、反映すべき内容は取り入れる予定です。情報の精緻化、各検討チームにおけるフォーマットの統一などを行い「標準属性項目リスト Ver.1.0」として年度末に提示予定です。その後は、必要に応じてメンテナンス及びバージョンアップが必要と考えます。



4 II. ソフトウェア間連携 進捗報告

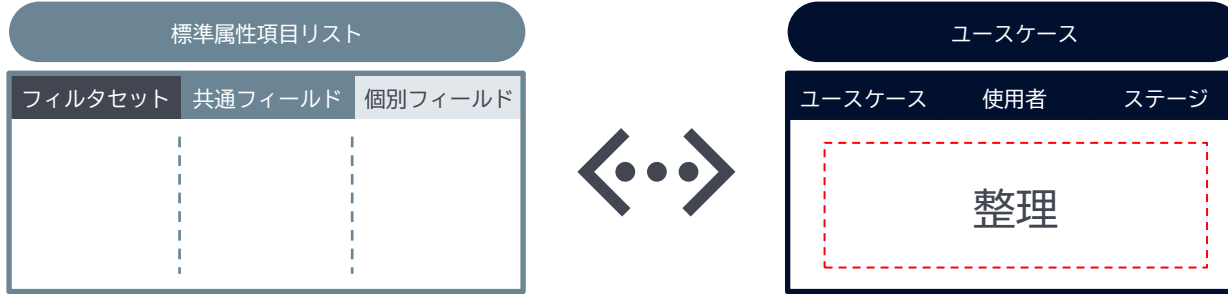
実施内容

タスク	作業方針	作業分担	担当	作業リスト
①ユースケースの検討	ユースケースのストーリーボードを増やす	<ul style="list-style-type: none"> 各チームにてユースケースの意見だしを行う リーダー会にて一覧化し、リストの粒度を調整する 	各検討チーム	<ul style="list-style-type: none"> i. ユースケースのリストアップ ユースケースに対し、必要フィールドを追加 一覧データを作成する
②情報連携の実用性検証-1	<ol style="list-style-type: none"> 積算ユースケースに基づき、部位・部分別情報と工種別情報を用いて標準属性項目リストとソフトウェア間連携に関する課題の抽出と改善策の提案を検討 BIMソフトウェア上・積算ソフト連携・ExcelなどのCase毎の課題を整理 	<ol style="list-style-type: none"> 積算チーム 積算チームからの課題を元にリーダー会で整理 	積算チーム 意匠・構造チーム	<ul style="list-style-type: none"> 審査TFのサンプルモデルにて検証 →審査TFのサンプルモデルでは属性項目の整理が複雑になると判断し、④-3にて作成するサンプルモデルにて実施へ変更 標準化TFの属性項目リストの思想に基づいた簡易サンプルモデルで実施へ（④-3との並行実施）
③情報連携の実用性検証-2	想定するユースケースに基づき、いつ誰がどのような情報を必要とするかを整理する 標準属性項目リストを拡張し、MET・MATの検討を行う	<ul style="list-style-type: none"> 各チームにて①の一覧データのステージおよび役割分担を検討し、整理する 	全チーム実施	<ul style="list-style-type: none"> ①のユースケースの優先順位付け ユースケースデータジャーニーの汎用的サンプル作成 優先度の高いユースケースにおけるデータジャーニーの作成＝積算データジャーニー作成
④情報連携の実用性検証-3	想定するユースケースに基づき、効率的な連携手法構築のための属性情報の活用方法を検討する 連携サンプルモデルの作成	<ul style="list-style-type: none"> 作成：意匠チーム / 構造チーム / 設備チーム CDE環境整備：意匠チーム / 構造チーム / 設備チーム →実際の作業環境に近い状況での検証とした 確認：データ整合チェックチーム / 施工チーム 検討：モデルの在り方（ステージに対するモデル詳細度やBIMソフトウェアで設定される属性項目に対する属性情報）を全チームにて検討 	全チーム実施	<ul style="list-style-type: none"> ワンスパン程度の簡易モデルの作成（中間ファイルや、部位別→工種別の変換検証が行えるモデル） 簡易サンプルモデルをCDEへ格納し、意匠構造モデルの統合を行い検証環境を整備 簡易サンプルモデルのステージに対するモデル詳細度の検討 BIMソフトウェアで設定される属性項目に対する属性情報の付与
⑤情報連携の実用性検証-4	想定するユースケースに基づき、効率的な連携手法構築のための属性情報の活用方法を検討する サンプルモデルを利用した検討	<ul style="list-style-type: none"> 意匠チーム / 構造チーム / 設備チーム ・現状でできること/できないことの把握 ・連携に向けてやるべきことの課題抽出 	全チーム実施	<ul style="list-style-type: none"> i. 簡易モデルを用いた標準属性項目の活用に関する課題抽出 中間ファイルフォーマットを介したデータ連携のマッピング標準形 協業する際のルール・所作の考え方 社会実装する際の <ol style="list-style-type: none"> 検討項目 実装フローの策定 工程案 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ii. 審査TFのIFCとの検証 iii. ユースケースごとの中間FMTがどうあるべきかの検討

作業内容

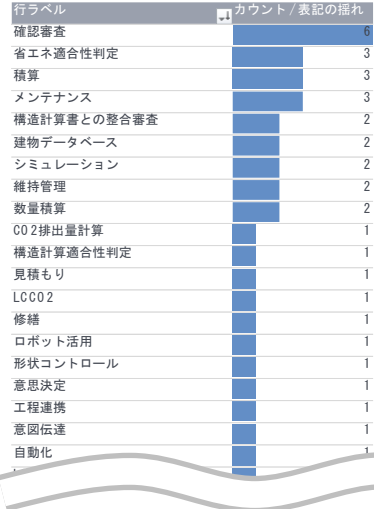
標準属性項目リストを活用するユースケースをリストアップし、想定するユースケースに基づき、いつ誰がどのような情報を必要とするかを整理します。

標準属性項目リストを拡張し、MET・MATの検討を行います。



意見件数集計

協力団体アンケート



リストアップ

- 実現までの到達レベル
- ニーズの高さ（協力団体による意見反映）



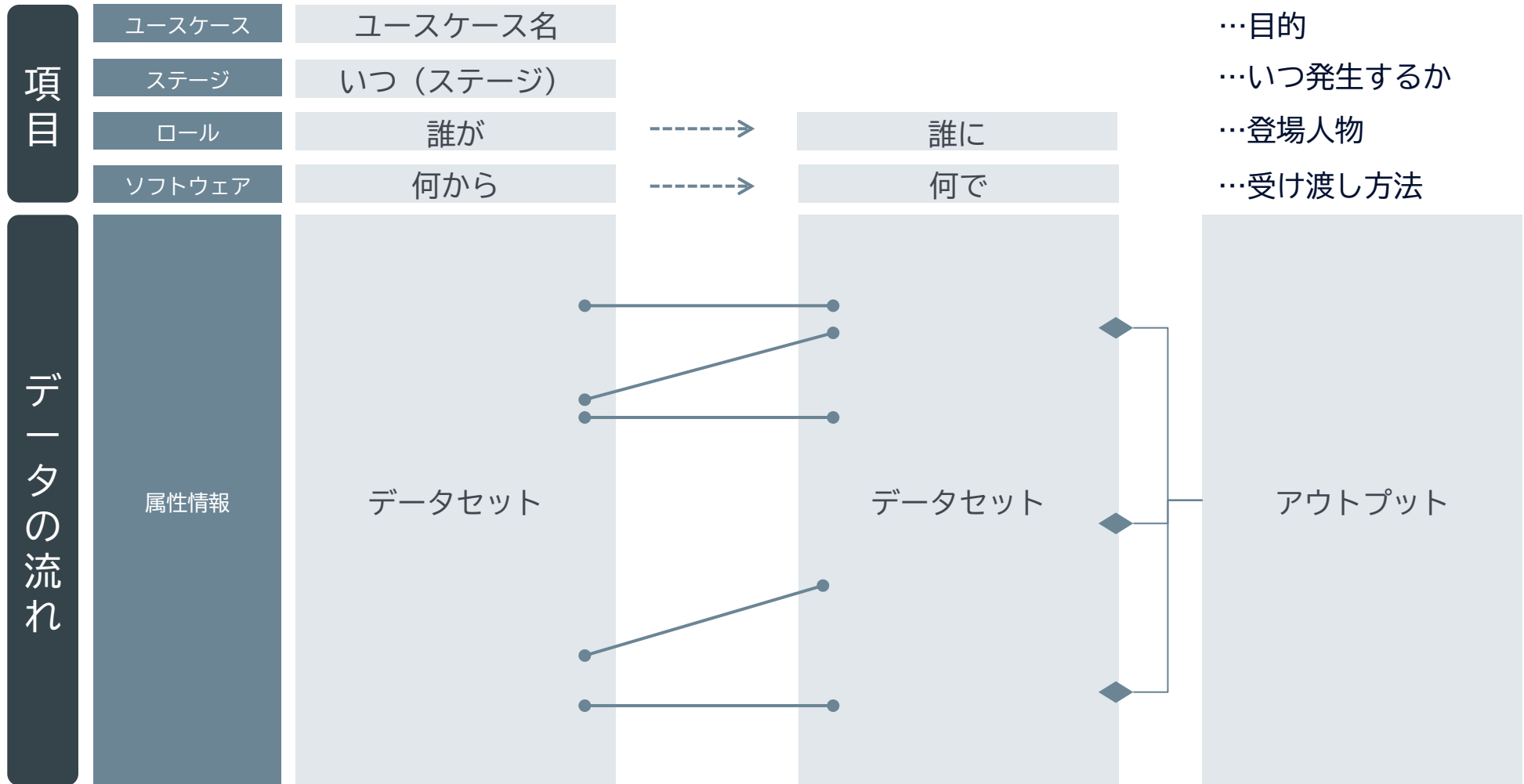
ユースケースの整理

- ユースケースで想定される項目を整理
 - どんな目的か？
 - どのステージで発生するか？
 - 登場人物は誰か？
 - 受け渡しの方法はどうか？
- 整理した項目をもとに、データの中味や流れを図式化（データジャーニー）
- 各ユースケースに応じた受け渡しに必要なデータセットを具体化して課題を洗い出すとともに、リストの過不足や必要な外部データについて検討を行う。

ユースケースでの標準属性項目リスト利用イメージ | データジャーニー

第20回建築BIM環境整備部会資料
再掲

- ユースケースで想定される項目（目的・ステージ・登場人物・受け渡しの方法）を整理します
- データの中味や流れを図式化（データジャーニー）し、ユースケースを具体化します
- 課題の洗い出しと属性項目の過不足を標準属性項目へ反映、外部データチームへ連携していきます



積算ユースケース

想定ユースケース: 基本設計(S2)段階、概算工事費算出のための、概算内訳明細作成

理想



1. 標準属性項目リストの大項目の定義が必須。

⇨標準属性項目リストの分類(部位・部材別)と、BIMデータの部材分類の関係性の整理が必要。
(リストで選択した項目が、BIMデータのどの部材へ反映されるかの整理が必要)

2. リスト内の構成、内容含めた項目の整理が必要。

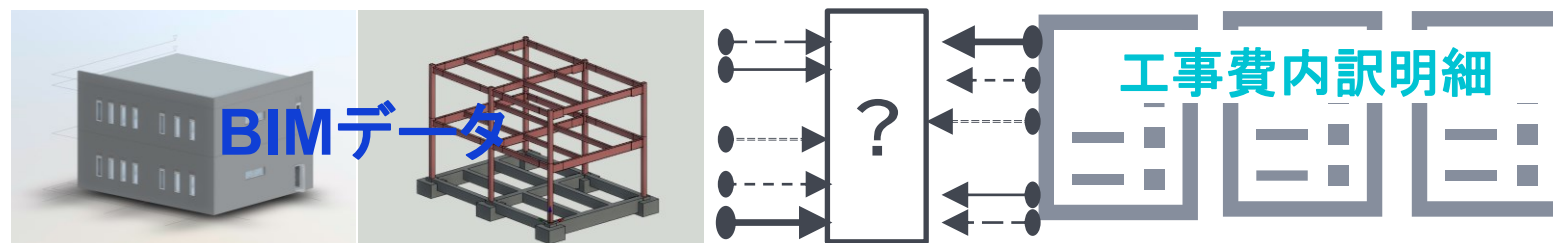
⇨リスト内の部位・部材同士の関係、追加項目の検証が必要。

※ 上記、①・②の課題整理の前提として、BIMデータと概算内訳明細の項目が1対1ではない。

⇨標準属性項目リストには、BIMデータ⇨内訳明細 への分類に関する情報項目があることが望ましい。

フェーズ毎に
定義・整理が必要!

課題



5

Ⅲ. 外部データとの連携 進捗報告

実施内容

タスク	作業方針	作業分担	担当	作業リスト
①検討チームの立ち上げ	<ul style="list-style-type: none"> 新規チームを立ち上げ、①～④の作業方針と分担を検討する まずは情報収集した上で、議論する内容・課題の洗い出しが必要 	<ul style="list-style-type: none"> リーダー会とは別途、外部データ検討チームを立ち上げる 	リーダー	<ul style="list-style-type: none"> i. 新規チームメンバーの選定 自薦/推薦 (各チーム) ii. メンバーが確定したら事務局で確認 (担当: 事務局) iii. 外部データとしてどういうものがあるか 事前調査 (担当: 各チーム)
①仕様連携・連携・運用方法の検討-1	<ul style="list-style-type: none"> 外部データに関する用語の定義と整理 	<ul style="list-style-type: none"> 本検討における外部データの定義 外部データに必要な技術 	全員	<ul style="list-style-type: none"> i. 外部データ連携とは ii. 外部データ連携に必要な技術 (社内連携) iii. 外部データ連携に必要な技術 (社外連携)
①仕様連携・連携・運用方法の検討-2	<ul style="list-style-type: none"> データベースの俯瞰整理 	<ul style="list-style-type: none"> データベースMapの作成 	全員	<ul style="list-style-type: none"> i. データベースの分類 ii. データベースの課題 iii. フェーズ、分野横断的に見たデータベースの俯瞰的整理
②ユースケースの検討	<ul style="list-style-type: none"> 外部データ活用の具体例 (ユースケース) の提示 	<ul style="list-style-type: none"> 設計段階の積算 (概算又は精積算) 仕様書連携 	全員	<ul style="list-style-type: none"> i. 設計段階の積算 (概算又は精積算) ii. 仕様書連携 iii. 海外事例

外部データ連携調査の目的

BIMの活用が進む中で、情報の取り扱いがますます重要になっていきます。BIMにすべての情報を集約することは可能ですが、社内で管理しているコスト情報やメーカーの製品情報など、既に存在する情報をわざわざBIMに転記することが現実的かどうかについて議論が行われました。その結果、BIMの外部に存在するデータについては「外部データ」として扱い、BIMと「連携」させる方が合理的であるとの意見が出てきました。「外部データ」という用語についても、「外部」が指す範囲や、「データ」が「データベース」とどう異なるのか、「連携」が具体的に何を意味するのかなど、発信者によって外部データとの連携に対する認識が異なることが明らかになりました。

このため、外部データ連携調査では用語の定義を行い、関係者間のコミュニケーションを円滑にすることを目指しました。また、さまざまな外部データを俯瞰的に整理することで、それぞれの強みや課題について議論できるようにしました。さらに、標準仕様書や積算など、以前から言及されている外部データのユースケースを中心に、いくつかの外部データを分析することにしました。

外部データに関する議論

BIMの中にすべてのデータを入れるか？

BIMの外にデータを出すものもあるか？



外部データ連携の調査内容

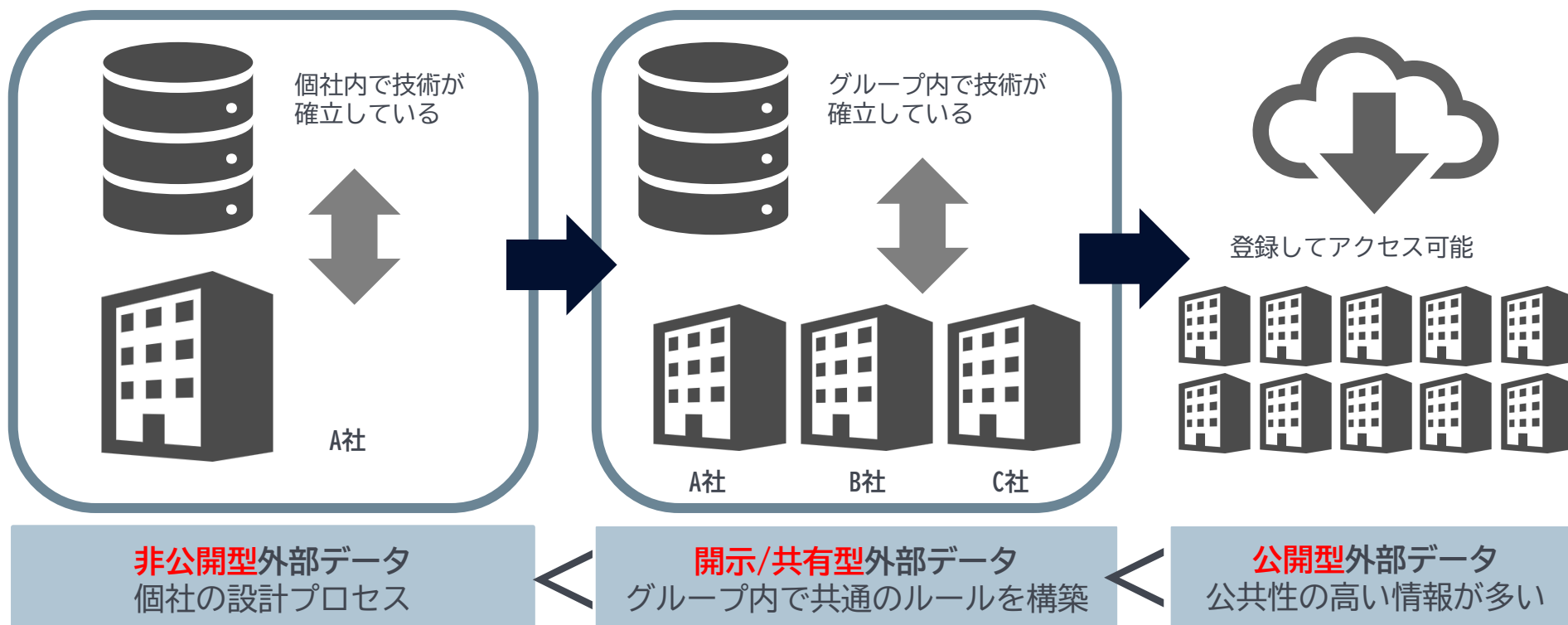
- ①外部データに関する用語の定義
 - ・データorデータベース
 - ・外部とは
 - ・連携とは
- ②外部データの俯瞰整理
 - ・外部データ具体例
 - ・データの分野、形式、帰属など
- ③外部データ活用の具体例（ユースケース）
 - ・標準仕様書
 - ・積算
 - ・その他

共有範囲による外部データの定義

外部データはその共有範囲によって3つに分類されると分析した。

「国交省建築BIMを通じた建築データ活用のあり方に関する検討会」(※1)の名称にあわせ、「**非公開型外部データ**」「**開示/共有型外部データ**」「**公開型外部データ**」と定義した。

(※1) 第17回建築BIM環境整備部会 (令和6年3月18日開催) [建築BIMデータのあり方検討会における取組の報告](#)



設計事務所内での設備設計に社内限定のデータベースを構築している例があった。BIMの外にあるため外部データと呼んでいるが、会社の外には出ていない。社内ルールで運用されていることが多い。

数社がコンソーシアムを組み、公共的に出されている指針をベースに各社仕様で異なる部分のみを上書きして必要なデータを社内データベースから参照してくる仕組み。数社間で共通ルールが必要。

登録もしくは、登録無しでデータを活用できる仕組み。公共性の高い情報が多い。公開型外部データ間での連携を行うためには、標準化されたルールが必要になる。

外部データの俯瞰的整理にあたって

○ 外部データとして取り扱う対象

本TFにおいては、外部データの対象として建物ライフサイクル全体におけるデータを主に取り扱う。分野やステージ・プレイヤー等を横断した検討とするため、俯瞰的に整理することを主旨とし、全てのデータを網羅的には扱っていない。

○ 外部データを一覧化して整理する際の指標

多岐の分野にわたる外部データを横断的に比較検討するための整理の軸として、下記を設定した。

【データ自体】に関すること

データの分野 (法令/認定/公共/設計/生産/運用…)
 データの形式 (種類・タイプ/粒度)
 データの構造化 (体系的な整理度合い/点数)
 データの更新度合 (更新頻度/蓄積性)

【データ管理】に関すること

データの帰属 (官/学/民/メーカー…)
 データの公開度 (公開/開示・共有/非公開)
 データの整備状況 (動き、備考的に記載)

【活用フェーズ】

外部データ名称	分野	形式	ベース化	硬さ	帰属先	公開度	整備状況	活用フェーズ (S1~S7)							
	法令/認定/規格/公共/基準/設計/生産/運用	種類・タイプ/粒度	整理・構造化/点数	更新頻度/蓄積性	官/学/民/メーカー	公開/共有/非公開	動向・状況、備考	0	1	2	3	4	5	6	7
LCA原単位データ								●	●	●	●	●	●	○	○
公共建築工事標準仕様書	公共	PDF/工種別	非構造データ含む/3 (建築・電気・機械)	3年に1回更新	国土交通省 官庁営繕部	公開	営繕でデジタル化の検討中		○	○	●	●	●		
メーカーカタログ	設計/生産/運用	PDF・web/品目毎							○	○	●	●	●	●	●

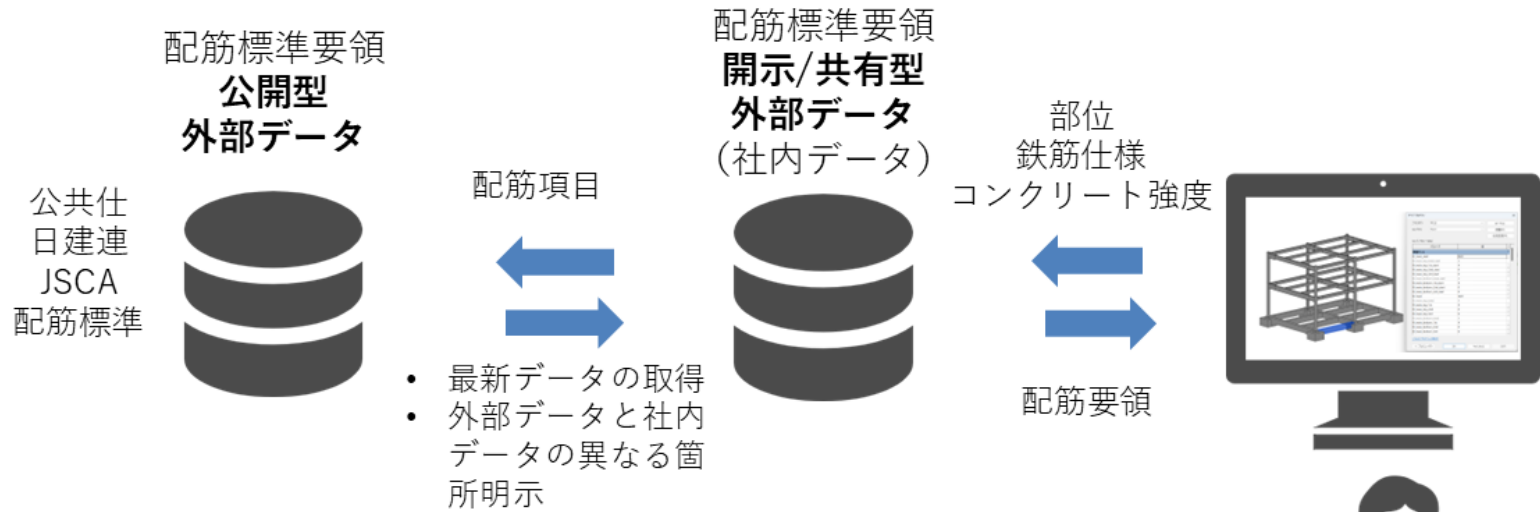
●：主要な活用を想定 ○：部分的な活用を想定

外部データ連携 | ユースケース例

標準化タスクフォースにおいては、主にBIMを中心にデータを扱うユーザー側の観点から、外部データの有り様や連携について検討を行う。管理主体についても、その目的や運営方法は様々であるが、データを活用するユーザー側の実務上の観点から、データ連携における課題や目指す姿を提示することを重要視する。外部データのユースケースを中心に、いくつかの外部データを分析した。

タイトル	外部データ分類	内容
構造特記仕様/配筋基準図	開示/共有型外部データ	公共に出されている指針をベースに各社仕様で異なる部分のみを上書きして必要なデータを社内データベースから参照してくる仕組み。公共に出されている指針の部分は公開型外部データとしてよいと考えるが、各社仕様が異なる部分は各社管理の元、データベースが必要となる。
配筋要領	開示/共有型外部データ	公共に示されている配筋の要領のデータ化を検討し、BIMデータとの連携や自社の配筋要領と比較等を行うユースケースの例。各社の配筋要領は公共に示されている指針をベースにしている場合が多いので外部データ化するメリットが大きい。現状の絵や図で示される内容をどの様にデータ化していくかが課題である。
建築コスト	非公開型外部データ 開示/共有型外部データ 公開型外部データ	建築コストの外部データ（数量、単価、仕様書、システム・基準）をBIMデータや内訳明細と効率的に連携するには、設計BIMデータと積算のBIM連携の推進と、各フェーズに適した単価データ整備が必要。また、連携のありかた（直接連携（外部データー内訳明細）又は間接連携（外部データーBIMデーター内訳明細））の検討も求められる。
設備設計	非公開型外部データ 開示/共有型外部データ	BIMを活用した設備設計では、BIMソフト単独での入出力は困難であり、非公開型外部データとの連携が現実的である。基本計画から実施設計にかけて、「設備諸室面積」「設備室諸元」「熱負荷・換気計算」などのデータ連携が考えられるが、特に機器選定や機器表には最新のメーカー仕様を反映する必要があり、開示/共有型外部データの活用が望まれる。
設備機材データ BLCJ	開示/共有型外部データ	建設資材、機材の製造者が情報を担保した情報を、BLCJ標準のフォーマットにより、設計、施工計画、建物運用に必要な情報として、管理運営していく。設計要件を計画している事象が、性能、環境、コスト等、判断すべき要件範囲を満たしているか、デジタル環境で選択する。 国際的な標準に適應することが可能なbSSD登録することで、より運用が容易になると思われる
建築行政共有DBシステム	開示/共有型外部データ	特定行政庁及び指定確認検査機関に向けた特定のユーザー内で共有されたデータベースとなるため、一般的に公開されていない。建築確認申請書等を提出する際に必要な認定書の添付を省力されるが、PDFでの検索となるため内容までは構造化されたデータではないと考えられる。
建材環境データ	公開型外部データ	設計者は公開型外部データである建材環境データベース（例：SuMPO EPD）から建材環境データ（例：建材EPD）を収集し、建物ホールライフカーボン（WLC）を算定する。現在の建材EPDはPDFであり、建材数量と原単位仕訳をExcelに手入力している。BIM連携による効率化が求められている。
KuniJiban	オープン外部データ	各プロジェクトにおいて敷地の場所情報から地盤情報を閲覧やデータの取得をする仕組みに関するユースケース例。現状は官公庁プロジェクトの一部のみオープン外部データとして活用架のであるが、民間プロジェクトのデータの拡充やデジタルデータとしての連携が進めば活用の幅が広がると思われる。

外部データとの連携 | ユースケース事例 配筋要領



鉄筋の種類 \ Fc (N/mm ²)	18	21	24	30	39	48
SD295	40d	35d	30d	30d	25d	25d
SD345			35d	30d	30d	25d
SD390			40d	35d	35d	30d
SD490			45d	40d	40d	40d

直線定着長さ L2

鉄筋の種類 \ Fc (N/mm ²)	18	21	24	30	39	48
SD295	40d	35d	30d	30d	25d	25d
SD345	40d	35d	35d	30d	30d	25d
SD390		40d	40d	35d	35d	30d
SD490			45d	40d	40d	40d

配筋要領
を取得

公開型外部データと社内
データが異なる箇所を明
示

タイプパラメータ(M)

パラメータ

鉄筋セット

D_main_start: D25

N_main_top_total_start: 5

N_main_top_1st_start: 5

N_main_top_2nd_start: 0

材料と仕上げ

構造材料: Fc24

外部データ (直線定着長)

鉄筋の種類	Fc	L2
SD295	18	40
SD295	21	35
SD295	24	30
SD295	27	30
SD295	30	30
SD345		
SD345		
SD345	24	35
SD345		35
SD345	30	30

定着長: 25 × 35 = 875

BIMデータと外部データ
を掛け合わせて定着長が
算出可能になる

6

今後の取り組み

2024年度の活動を受けた今後の取り組み

青文字：着手済み
 レ点：完了
 ・点：継続
 黒文字：未着手

2024年度	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	Q2			Q3			Q4		
アウツプット	標準属性項目リスト意見反映 たき台▼			標準属性項目リスト意見反映 素案▼			標準属性項目リスト 精緻 Ver1.0 報告書提出 ▼		
I. 属性情報の標準化	<p>協力団体意見収集</p> <p>「標準属性項目リスト」の定義</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ リストの全体像 (対象とするカテゴリ種類、枠組み) ✓ 項目リストのフォーマット、リストに定める事項 ✓ 言葉の定義 ・ リスト利用 (属性ID、ユースケース) <p>対象とするカテゴリ・属性情報項目の精緻化</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 分類に関する考え方の整理 ✓ 意匠・構造・設備・施工・製作 それぞれでの見直し ・ 意構設での連携、調整 ・ 施工/製作での連携・調整 <p>各チーム課題整理</p> <p>標準属性項目リストの利用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 想定されるユースケース ✓ 利用イメージ 			<p>報告書作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 報告書として整理 ・ 標準属性項目リスト整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 説明資料・ロングリスト・解説書 ・ リスト利用 <ul style="list-style-type: none"> ・ (属性ID、ユースケース) のまとめ ・ 運用方法に関する提案 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本格運用に向けた準備として、継続的にメンテナンスを行うための戦略や方針を検討 ・ 取組から得られた課題提起 <ul style="list-style-type: none"> ・ 計算情報 ・ 英語化 			<p>本格運用に向けた準備として、継続的にメンテナンスを行うための戦略や方針を検討する</p> <p>各検討チームからの来期方向性を集約し計画へ反映する</p>		
II. ソフト間での連携	<p>連携手法の検討・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 検討用簡易モデルの作成 ・ 一部工種 (検討中) の連携仕様作成 ・ 垂直連携 (基本設計、実施設計) フローの作成 <p>中間ファイルフォーマットの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CSV、Xml、Json、IFCなど包括的に特徴を整理 ・ IFCルール・枠組み・実装フローの調査・検討 			<p>連携モデルとしての標準形のあり方検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間ファイルフォーマットを介したデータ連携の標準形 ・ 協業する際のルール・所作の考え方 ・ 社会実装する際の検討項目・実装フローの策定、工程案 			<p>I. 属性情報の標準化はリスト化ver1.0で今期取り纏めたため、来期は「II. ソフト間連携」と「III. 外部データ連携」に軸足を置く</p>		
III. 外部データとの連携	<p>外部データ定義方針検討</p> <p>BIMを用いた概算手法の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 概算の考え方や目的の整理 ・ ユースケースの整理 <p>BIMによる外部データ連携に向けた課題の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部DBとして想定されるラインナップと粒度を検討 ・ 外部DBとの連携のカタチ (ユースケース検討) ・ BIMへのデータの持たせ方 (外部化する項目はどれか) 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 手法の策定、検証 			<p>リストの使い方を中心としたユースケースの深掘が具体的なテーマの一つと考えられる</p> <p>そのため、様々なユースケースにおける属性項目リストの使い方やBIMとの連携方法などを検討したい</p>		

以上

標準化タスクフォース